

所長あいさつ

令和5年度 所報「ばんだい No. 58号の発刊にあたりご挨拶申し上げます。

令和5年度も新型コロナウイルス感染症の影響でのキャンセルがありました。6月頃から学校利用も増え、本所にも少しずつですが活気が戻ってきました。



教育事業では13泊14日で青少年の食育と運動習慣づくりを目的とした「アクティブ・ジオキャンプ」や、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、未来を考えさせ、行動できる青少年の育成を目指す「福島子ども未来塾」は予定通り実施することができました。この他にも子ども食堂と連携した「生活自立支援キャンプ」、高校生を対象とした「地域探求プログラム」、家族での体験活動を推進することを目的とした「スマイルばんせい」等、多くの事業を予定通り実施することができました。

また、ほとんどの教育事業で定員を大幅に上回る応募があり、子供たちが体験活動の機会を求めていることをあらためて確認しました。よりよい体験活動の提供に今後とも努めることが必要であると考えております。

令和5年度に実施しました教育事業等の報告をまとめたものが、所報「ばんだい」No. 58号であります。皆様におかれましてはぜひご一読いただき、ご意見やご批評をいただければ幸いです。

結びに、今年度ご利用いただきました皆様、ご支援をいただきました研修指導員・体験活動指導員の皆様や法人ボランティアの皆様など、関係者のすべての方々に衷心より御礼申し上げます、あいさつといたします。

令和6年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家 所長 小野 保